

第3次教育ビジョン策定

国分寺市教育ビジョンは1998年度より5年ごとに策定されていましたが、今回策定された第3次国分寺市教育ビジョンは、市の最上位計画である第2次国分寺市総合ビジョンが2025年度から8年間の計画であることを踏まえて、それに合わせ2032年度までとしています。

子どもをめぐる社会情勢が目まぐるしく変化する中で、8年間は長すぎます。また、策定検討委員が、教育長のほか市職員と市立小中学校の校長のみだったので、市民や有識者を入れ、多様な意見交換をして策定するべきでした。国分寺ネットでは2020年の厚生文教委員会でも「次期計画策定の際にはパブリックコメントだけではなく、もっと早い段階で市民参加の機会を」と提案していましたが、今回も教育関係者のみでの策定となり、特に、教育と福祉の連携や不登校児童・生徒や家庭への支援、特別支援教育についてなどに関する内容が薄いと云々ざるを得ません。

昨年のパブリックコメント募集には145件の意見が寄せられました。教育ビジョンに対する市民の思いの強さや関心の高さがうかがえます。非常に重要な指摘があったにもかかわらず、今回意見反映された数は十二件のみでした。反映されなかった多くの貴重な意見を、2025年度からの教育施策にしっかりと生かしてほしいと強く要望しました。寄せられた意見は市のホームページで公開されています。

(小坂まさ代)

教育ビジョンに対する
パブリックコメントの意見



労働人口の減少を見据えた取組を！

国分寺市では若い世代の転入もあり、人口は微増していますが、いずれ人口減少に転じます。一方、2025年は団塊の世代の皆さんがすべて後期高齢者となります。少子高齢化による労働人口の減少を見据えた取組が必要です。特に、人材不足は、医療や介護、保育などの福祉や教育機関、小売や運輸、建設業界など社会になくてはならない職種で深刻になっており、実際に私たちの暮らしに影響し始めています。若い世代が職業として選択できるように、それぞれの労働の価値を評価し、労働に見合った賃金に引き上げていくことが重要です。

また、地域には行政や専門職だけでは解決できない問題も多くあります。あらためて、市民の出番です。とはいっても、家族のカタチが変わり、地域のあり様も変わってきています。市民自らが、これまでのカタチにとらわれず、多様に地域を紡いでいける環境が重要です。どんなことでも、必要だと気づいた人が、自分発でやってみようと実践できることを支援していきます。

(高瀬かおる)

市内の公園の新たな動き

黒鐘公園が市有地化され、だれもが楽しめるインクルーシブな公園として整備されます。予定地の北側には、木々の緑が多く池もあり、貴重な生物多様性豊かな場所です。自然環境を可能な限り残し、公園全体が調和したインクルーシブな場としての公園づくりを要望してきました。アンケート結果を踏まえた遊具の選定や、バ

リアフリーストイルの設置などが予定されています。2025年度中に開園した後も、市民みなで管理し、場をつくっていくような公園となるよう求めました。

また3月に戸倉4-16に「戸倉みんなの公園」がオープンしました。中央には、ボール遊びのできる場として大型のネットが張られています。あずまやや、井戸から水を汲み上げて遊べる場所もできました。建設環境委員会で視察に行きましたが、設計段階より大木が減り、夏場の暑さが心配なため対策を求めました。使いやすい公園となるよう、今後も使い方のルールなどを一緒に考えていくことが大切です。皆さんのご感想など、お待ちしています。

(松岡まり)



開園したばかりの「戸倉みんなの公園」